

サラダ記念日は遠い昔

株式会社榎戸材木店

会長 榎戸 正 人

「サラダ記念日」は俵万智さんのもう40年も前の本ですが、今でも若い人も知っているベストセラーです。毎年、7月6日にサラダを食べている人はいないでしょうが。英語では「サラダ・ディ」、サラダの日は「青春時代」の意味のスラングです。だから、私にとってサラダ記念日は遠い昔。

なぜ「サラダ・ディ」が「青春時代」なのかというと、洋食で最初に出て来る料理がサラダ。人生の始まりということで、サラダ・ディと言われています。ミネラルウォーターの方が最初に出て来る？あれは青春の前、幼児期。でも、「ウォーター・ディ」という言葉はありませんが。

サラダを食べるたびに青春時代を思い出すことはありませんが、家庭菜園で採れたプチトマトやキュウリ、シソの葉などを使ったサラダは我が家の定番メニューです。野菜が採れ過ぎて仕方なく食べているのですが……

野菜が高い昨今、我が家で採れるのは有難いことですが、誰も喜んでくれません。「またキュウリ、採れたの！」と嫌な顔をされたりします。別にキュウリを食べ過ぎたからと言って河童になるわけでもないのに。



高齢者は英語では「ゴールデン・エイジ」と言います。定年になり、「さあ、これからは楽しい人生が始まるぞ！」ということなのでしょうが、日本の老後はゴールデンではなく、錆びた鉄になりつつあります。欧米人にしてみれば、なぜ日本人は70歳を過ぎても働きたがるのか、不思議に思うかも知れません。確かに生きがいを求めて働いている人も多いのかも知れませんが、年金だけでは食べていけず働いている人も増えてきています。

今、サラダ・ディの若者は定年後は更に厳しい生活になるのでしょうか。錆びてボロボロの鉄にならないように、NISAなどを始める若者も増えてきています。中には給料の多くをNISAに回し過ぎて「NISA貧乏」と呼ばれる人まで出て来ていますが、それだけ老後に不安を抱いているのでしょうか。サラダ・ディはタバスコをかけ過ぎた辛いサラダになっています。

北欧諸国のように年金だけで豊かな老後を過ごせるようにするには、消費税を20%以上にしなくてはならないのでしょうか、そのためにはその負担に耐えられるだけの収入が必要です。ヨーロッパの多くの国では日本の3倍くらいの給与を貰っているようですが、物価も3倍くらい高い……日本同様、多くの若者の暮らしは楽ではありません。

物価を考えずに賃金の高さに惹かれて、ワーキング・ホリデーを使って外国でアルバイトを始めた学生の中にはアパート代や食費の高さに耐えられず、帰国する人もいます。外国のサラダが美味しいわけではありません。

所得格差が拡大している今、新鮮なサラダの青春と、黄金色に輝く老後は、世界のどの国でも遠い昔の話になりつつあります。この先の世の中が心配です……